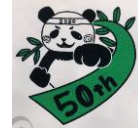




～祝 50周年～

笹小だより No. 6



令和 3 年 9 月 30 日
横浜市立笹野台小学校

「分散登校」

校 長 飯 田 雅 人

8月末までの臨時休校の後、9月1日の夏休み明けの授業再開後からは、感染症拡大防止の観点から分散登校の日々が続きました。本来でしたら、この時期は、運動会のリレーの選手決めや応援団の取組が始まり、運動会に向けての雰囲気は少しずつ盛り上がって来ていたはずなのですが、残念です。しかしながら、ここは先月号の学校だよりでもお伝えした「陽転思考」の発想でいきたいと思えます。

分散登校中、様々な気付きがありました。例えば、1クラス当たりの子どもの人数が少ないのは、もちろん寂しいことです。しかしながら、教室にいる子どもの人数が少ない分、教職員は一人ひとりの子どもにより目が行き届き、当然声をかける回数も物理的に多くなります。そういった面では、夏休み後の子どもの様子を知るためには、ある意味絶好のチャンスだったと言えます。子どもにとっては、今までは友達任せにしている部分があったとしても、分散登校中は、人数が少ないので自分が発言しないと授業が進みません。また掃除や給食当番の活動を考えてみても、掃除の時間に運ぶ机といすの数や給食の食缶の数はいつも通りです。当然、一人の子どもが今までの2倍活動しないと、毎日のクラスとしての集団生活を過ごすことができなくなってしまいます。休み時間にけがをしてしまったり保健室に来室する子どもの数は激減でした。これは、校庭で遊んでいる子どもの数が半分になっているので、校庭での子どもの密度が半分になっていることが大きな要因ではないかと思えます。私にとっては、いつもにも増して、校庭で先生や友達と一緒に走り回って遊んでいる子どもたちの笑顔をたくさん見ることができたことは、分散登校中の癒しでもありました。

とはいうものの、1年生の教室では、「早くみんな揃って学校で会いたいな。」とか「先生だけみんなに会えていいな。」という子どものつぶやきも聞かれ、担任は、そういう声を聞いて大きく心を揺さぶられたそうです。通常登校に戻った後も、分散登校だからこそのできたことを少しでも生かしていきたいと思えます。

さて、10月4日（月）よりやっと通常登校での学校再開です。引き続き感染症拡大防止対策に努めてまいります。ご家庭でもご協力よろしくお願ひいたします。10月以降の学校行事については、今後の感染拡大状況を注視しながら、予定通り実施、実施方法の変更、中止、延期等の判断をその時々でしていくことになります。子どもの健康・安全を第一に考えながら、できる限り学びの機会を守るという本当に難しいかじ取りになります。その時々での判断の結果がどうあれ、できる限り早くお伝えできるようにします。どのような判断をしようともきっと様々なお考えが出てくることは承知していますが、何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願ひいたします。